



# しもじ通信 vol.191 4月号

2024年

4月号

## 『麻疹(はしか)って何?』



しもじ内科クリニック院長

下地 栄壮



2024年2月以降、国内で複数の麻疹患者が確認されたとニュースになってから麻疹について質問されることが増えました。2015年3月に世界保健機構から日本は麻疹(はしか)が排除状態にあることが認定されていますので、麻疹という名前は知っていてもどんな病気かピンとこない方も多いのではないのでしょうか? 実際、私も医師になって麻疹の患者さんを診断したことがありません。今回良い機会と思い、麻疹について調べてみました。

### <麻疹とは>

麻疹ウイルスによって罹る急性の全身性感染症で、空気感染・飛沫感染・接触感染でヒトからヒトに感染します。感染力は非常に強く(1人の感染者から周囲の12-18人に感染するとされる)、免疫を持っていない人が感染するとほぼ100%の確率で症状が現れ、一度感染して発症すると一生免疫が持続するといわれています。

### <感染すると>

感染後、10-12日の潜伏期間を経て、鼻汁や咳、発熱などの症状で発症します。38℃前後の発熱が2-4日続き、倦怠感や目やにを伴う結膜炎もみられます。また、最初の発熱の後に口腔粘膜に1mm程度の白い小さな斑点(コプリック斑)が出現します。コプリック斑出現後、一旦体温は下がりますが、再び高熱と発疹が出現します。40℃に達するほどの高熱が出ることもあり、発疹は一般的に顔から始まり躯幹部や四肢にかけて一気に広がります。発疹が全身に広がる時期の3-4日間は発熱が続き、その後発症から7-10日で症状は改善します。

合併症としては、肺炎や中耳炎が多く、脳炎は1000人に0.5-1人と頻度は低いものの致死率が15%と高く、20-40%に中枢神経系に後遺症が残るため注意が必要です。

### <予防のためには>

麻疹に対する特効薬は現在もなく、治療は対症療法が主になります。そのため、**ワクチンによる予防が最も重要**です。1回の接種で95%以上、2回の接種で99%以上の割合で免疫力を得ることができます。現在、日本では1歳以上2歳未満の時に1回目、小学校入学前の5歳以上7歳未満の時に2回目のMRワクチン(麻疹風疹混合ワクチン)を定期接種されており、2歳以上の全世代で抗体保有率は95%以上に保たれています。

しかし、1972年9月30日生まれまでの人では定期接種が始まっておらず、2000年4月1日生まれまでの人は定期接種が1回のみだったために免疫が十分ではない可能性があります。アジアやアフリカを中心に感染が拡大しているとのことで、海外への人の移動が活発になってきた現在、過去に麻疹に罹ったことがなく、ワクチンを1回しか接種したことがない人は、十分な抗体があるか検査を受けたり、必要があればワクチン接種を検討して下さい。



※妊婦が麻疹に感染すると合併症のリスクが高いとされ、**流産や早産の可能性も指摘**されています。しかし、ワクチンはウイルスの毒性を弱めた生ワクチンなので妊娠中に接種することは適当ではないとされているため、妊娠を希望する人は予め接種を受けることが大切です。予防接種をした後、2か月間は避妊して下さい。

※過去に麻疹または風疹に罹った人が、MRワクチンを接種しても問題はありません。



しもじ内科クリニック(nico nico studio)

東区三苦3丁目2-49(福岡銀行美和台支店隣り)

TEL:092-605-6300